

滋賀森林インストラクター会

会報・第22号 2018年6月30日



梅雨の花アジサイ（2018/6/21 石山）

目次

1. 緑の少年団 個別指導研修会	事務局	2 頁
2. 平成29年度緑の少年団活動交流会	下川 茂	3～4 頁
3. 初秋の河辺いきものの森で	関澤 友規子	4～5 頁
4. 「大砂川の森」点描	高橋 優	5～8 頁
5. やまのこりポート（滋賀会活動発表会より）	佐々木 建雄	8～10 頁
6. 平成30年度総会および事業計画	事務局	10～11 頁

～緑の少年団 個別指導研修会～

事務局より

平成29年度の「緑の少年団サポート事業」（滋賀県緑化推進会の委託事業）の「緑の少年団個別指導」が無事終了しました。

平成29年度の個別指導は全4回、平成28年度の5団からさらに少年団の数が減っています。平成26年度からはじまったこの個別指導ですが、当初10団前後の少年団から依頼がありましたが、ここ2年では半減しています。繰り返し個別指導を依頼するほどのニーズが少年団にないのかもしれませんが、ただ、守山市緑の少年団や大津市緑の少年団のように、結団式や修了式のような少年団の行事の中のプログラムとして、自然観察やクラフトを指導をしてほしいという要望から依頼があり、このような形の個別指導が増えることを期待します。

29年度の計4回の個別指導会に講師として参加していただいた滋賀会会員は以下のとおりです。

緑の少年団 個別指導実施一覧

開催日	少年団名	滋賀会講師
平成29年		
6月10日(土)	大津市：大津市 緑の少年団	佐々木建雄、平田明、高橋優 小西民人、山口朋子
11月20日(月)	米原市：山東小緑の少年団	下川茂、梶谷栄治、小西民人
12月15日(金)	長浜市：朝日小緑の少年団	梶谷栄治、小西民人 関澤友規子、下川茂
平成30年		
3月03日(土)	守山市：守山市 緑の少年団	小西民人、 佐々木建雄、高橋優



朝日小緑の少年団の樹木観察



同少年団のネイチャーゲーム風景

～平成29年度 緑の少年団活動交流会～

下川 茂

県内の緑の少年団が集まり、お互いの交流を深め、1年間の団活動について情報交換をすることにより、さらに活発で有意義な緑の少年団活動につなげることを目的に、去る平成30年2月24日（土）に、近江八幡市の「休暇村 近江八幡」施設周辺を活動の舞台として「緑の少年団活動交流会」が実施されました。

今回は、県内各地から計5団の少年団の児童56名をはじめ、指導者・保護者等を含めると合計80名近い多数の参加がありました。これに対応し、当日は合計13名のスタッフが揃い、当日の指導全般を受託した滋賀会からは9名がこの任に当たりました。



活動交流会のプログラムは午前中が①「自然観察」で、これはびわ湖に面した休暇村施設の背面側にあるキャンプ場裏山の山道沿いにA/Bの特設2コースを設けました。今回の参加者は、小学校下学年（1～3年）が全参加者の65%以上を占めたため、安全に十分配慮するとともに、子どもたちが楽しく興味深く学べることを念頭にコースづくりを考えました。特に、この地域特有の稀少植物の「ムベ」については、実の写真資料を提示したり名前の由来を解説する等の工夫を行いました。

裏山を少し登ると眼前にびわ湖が見え、少し前方には我が国唯一の淡水湖の有人島である「沖島」が広がっており、せっかくの機会なので数多くの自然・歴史・文化が現存する島「沖島」についても用意した資料をもとに若干の紹介を試みました。



午後のプログラムは、②「ネイチャークラフト」づくりに取り組みました。参加者を2つのグループに分けて、用意した2種類の「ネイチャークラフト」＜押し葉のパウチ・フェイス＞を各々のグループが交互に製作を行いました。各々の製作時間を約30分として子どもたちの進捗具合を見ながら適宜ローテーションをして、どの子もオリジナルの2種類のクラフトを作り上げることが出来ました。

今回の活動交流会は、事前に実施した下見の際には、山裾の観察路にはカチカチの残雪が一面にあって当日の活動が心配されましたが、事業本日にはほとんどが融けて無くなり予定通り実施できたことは幸いでした。ネイチャークラフトの製作も参加者が例年の1.5倍と多く、滋賀会が所有するラミネーターやグルーガン等の器材数の関係上、交互の製作を余儀なくされましたがありがたいことに時間内に製作が終わり、当初の心

配も杞憂に終わりました。

昼食の際に提供した「ぶた汁」も、ぶた汁を作ったキャンプ場から昼食会場までが離れていて、キャンプサイトの急な坂道を人力で運搬し難儀しましたが、参加者の口々から「おいしい！」の声が聞こえ苦労が一瞬で吹き飛びました。

今回の事業を通して、「滋賀森林インストラクター会」の組織力と団結力<いわばチーム滋賀会>のすばらしさをあらためて実感した次第です。せひ来年度も滋賀会諸氏のさらなる積極的な参加を願い、拙い事業報告を終わります。



初秋の河辺いきものの森で

関澤友規子

9月の緑の少年団の指導者講習のスタッフで河辺いきものの森にここ3年、参加しています。愛知川沿いの河畔林だったここは地元の方々等の保全活動で守られている気持ちの良い森で、コナラ、クヌギ、アベマキも多い。初秋のこの森で毎年見るのが地面に落ちているどんぐりの小枝。昨日、そんなに強い風が吹いたのかな？と思う位に沢山。そのいずれもどんぐりの帽子にぽちっと小さな穴が開いている。



コナラのどんぐりの殻斗に開いた産卵穴



ナイフで切り落としたような切口

そう、これがオトシブミ科の「チョッキリ」と言う小さな甲虫の仕業。ハイイロチョッキリのお母さんがその象のような「口」でどんぐりに穴をあけて産卵しては、小枝を「チョッキリ！」と切り落とすのがこの季節。どんぐりの中で孵化した幼虫が中身を食べ、いずれ外の世界に出て来て、土に潜って蛹になります。そして翌年に地面に出て来てまたコナラなどに登って…の繰り返し。去年はそんな穴の開いたコナラの1枝を持ち帰り、飼育箱に入れて観察しましたが、残念ながら無言のまま今に至っています。今年も9月に行く予定なので、また参加者の皆さんとそんな話をしながらどんぐり付きの小枝を探し、再度観察してみたいですね。今年も秋が待ち遠しいです♪



ハイイロチョッキリ：こんなに小さい虫なんです。コナラの葉と比べてください。

「大砂川の森」点描

高橋 優

前号(会報 21 号)で、安田理事から報告のあった「大砂川の森」の整備活動は、今年度も地元ボランティアとともに毎月第3日曜日に実施しています。安田さんが所属するこどもスポーツクラブの方々やご近所の方、安田さんの幼馴染など多くの方が参加しています。みなさんから「こうちゃん」と愛称で呼ばれており、森づくりの活動に仲間を惹き寄せる安田さんの人柄を窺わせます。

活動の様子は滋賀会のHPでも報告していますが、今回は、お見せしていなかった写真で森の姿や活動の様子を紹介したいと思います。

まずは、3月の森林整備活動の時に見つけた「リスの食卓」です。大砂川の堤に倒れた木の幹にリスが食べ散らかした木の実が残っていました。「大砂川の森」は川が流れだしている山に隣接しているので野生動物が来るのでしょう。鹿の角跡がある樹皮や猪が掘り返した土などもあります。



リスの食卓



まつぼっくりの食べかす



こちらは栗を食べた跡

森の広場の整備、拡張が順調に進んでいます。

竹や柴などの低木、立ち枯れになっている枯木、大きな木にまわりつくつる植物などを伐採し広場を広げました。



整備前（5月）



整備後（6月）

しかし、まだまだこのような状態が残っています。



荒れ放題の竹繁茂

「大砂川の森」に隣接する住宅の方からの要望があり、6月の活動で枝が張り出したコナラを伐採することになりました。立派な大木なので、ちょっともったいないのですが...

受け口を切らず、追い切りのみでワイヤーで引き倒す力ずくの伐採作業でした。森が少し明るくなりました。



ワイヤーを引く安田リーダー



チェーンソーで追い切り

休憩時間には安田さんが用意してくれたお茶とポップコーンをいただきます。整備作業で集まった枯れ枝や落ち葉で火をおこし、お湯を沸かし、ポップコーンを炒ります。休憩時間の定番になりました。

食べ終わると、子供たちはすぐに森の遊びを始めます。子供たちが楽しんでいるのを見ると、「大砂川の森」は安田リーダーの狙い通り家族で遊べる森になりそうです。



休憩（もぐもぐタイム）



木登り

梶谷副会長が「大砂川の森」に参加している方々に森林インストラクターの資格試験を紹介しています。興味を持たれた方もおられるので、試験問題集をお貸ししています。この森林整備活動から森林インストラクターが誕生すればうれしいですね。

やまのこレポート

～滋賀会会員「研究・活動発表会」より～

佐々木 建雄

「次代を担う子どもたちが、森林への理解と関心を深めるとともに、人と豊かに関わる力を育むため、学校教育の一環として、森林環境学習施設およびその周辺で体験型の学習を実施する」

平成18年に創設された「琵琶湖森林づくり県民税」の一部を財源として、滋賀県の「やまのこ」事業が立ち上げられました。冒頭文は、やまのこ事業の目的を表しています。

この事業は、全国的課題である森林の荒廃に危機感をもって、滋賀県が制定した「琵琶湖森林づくり基本計画」に則し、立ち上げられた事業の一つです。全国に先駆けて、滋賀県からこのような素晴らしい事業が始まったことに、県民として誇りをもちたいと思います。

私は平成24年より、県下8ヶ所ある「やまのこ」の受け入れ施設のうち、栗東市の森の未来館所属の滋賀県普及指導協力員（地域サポーター）として活動を始めました。

この施設では主に草津、守山、栗東、湖南の4市の小学校から、4年生を受け入れています。活動プログラムは、森のレクチャー、間伐、森林散策、木工クラフト、丸太切りなどで、これらを、学校の要望や天候等の条件に合わせ、適宜組み合わせ実施しています。



活動の始まりは、山に向かって大きな声で「お・は・よ」

プログラムの中で、子供たちにいちばんインパクトを与えるのは、やはり間伐でしょうか。樹齢20～30年、樹高15m余りのヒノキに、子どもたちがノコを入れ、自分たちでロープを引いて、地響きをたてて木が倒れるさまを見るのは、一生に一度あるかないかの経験です。引率の先生からさえ初めて目にしたと、驚きの声が聞かれるほどです。

木が倒れる瞬間の緊張感、倒れた後の興奮などがないまぜになるのか、子供たちからは大きな歓声があがります。

倒した木は、その後枝払い、輪切りのおみやげ作り、皮むきなどを実施し、掃除・後片付けをして活動を終了します。そして、最後に、命を頂いた木に感謝の言葉をかけます。



ノコ入れも最初は恐る恐る



木が倒れる緊張の瞬間



ムカデ梯子による高さ体験

活動を通して何より大事なものは、子供たちの安全。

山にはいっぱい危険が潜んでいます。先日は、間伐地で昼寝中のマムシと遭遇。幸いにかまれるようなことはありませんでしたが、一步間違えば取り返しのつかないことに。

スズメバチが子どもにまとわりついたことも、また森林の散策路にはヤマビルも待ち受けていますし、マダニにもあちこちにいます。

すべての危険に気を配り、子どもたちを無事未来館から送り出して、やっとやまのこの活動終了となります。

最後に……、やまのこ事業には、今後の課題もたくさんありますが、まずは、このような素晴らしい取り組みがあることを良しとし、着実な課題解決に向けて、県、市町、施設のスタッフが連携を取ることが必要と思われます。特に、県の関係者には、事業主として指導性を発揮していただきたいものです。

(なお、山の子事業について、県の広報誌、滋賀プラス1のvol.174 7・8月号に紹介記事があります)

～平成30年度総会開催報告～

滋賀森林インストラクター会事務局

平成30年度滋賀会総会を4月28日(土)に開催し、前年度の活動報告、決算、今年度の事業計画と予算案が承認されました。承認された事業計画を下に掲載します。総会の時点では未定であった事業のうち、役員会で検討決定した項目を追加しています。それぞれの事業に会員の皆様の参加をお願いします。

事業

日時	場所	事業内容等
H30.4.21(土)	希望が丘「青年の城」 周辺(竜王町)	野草観察会(希望が丘公園主催) ガイド(解説者)として参加
H30.5.27(日)	グリーンパーク想い出 の森(高島市朽木)	家族自然観察会 (びわ湖りす森倶楽部主催)
H30.5月～ (第3日曜)	大砂川の森 (湖南市三雲)	・ふれあいの森作り活動 森林整備とツリーハウス作り
H30.7.24(火)	田上公園 (大津市)	こども樹木博士 TANAKAMIこども環境クラブの活動をサポート
H30.6月 ～H31.3月	県内の4地区7カ所 施設 未定	契約締結(6月) 緑少指導者研修会(滋賀緑化推進会主催 上期) 緑少個別指導研修会(各少年団主催 通年)
H30.10月上旬	未定	山を活かす、山を守る交流会(滋賀県主催事業) ・テーマ、展示内容未定
H31.2.23(土)	希望が丘「青年の城」 周辺(竜王町)	緑の少年団活動交流会(緑の少年団滋賀県連盟主催) ・樹木観察、木工クラフト指導、ネイチャーゲーム等

研修会

日 時	場 所	事業内容等
H30.7.08(日) H30.8.12(日) H30.10.14(日) H30.12.09(日)	ビラデスト今津 きんせの森 高取山ふれあい公園 みなくち子どもの森	・ 滋賀会定例研修会（原則偶数月第2日曜日開催） 緑の少年団指導者指導者研修会の会場を研修場所に選定。 講師として参加していない会員にも会場の森を体験してもらおうねらい。
未定	合併記念の森 （京都市京北）	・ 林業体験研修会 京都会の間伐活動に参加

編集後記

会報第22号（2018年度上半期号）をお届けします。

このところ梅雨の雨模様が続いていますが、まもなく明けそうです。今年の梅雨明けは記録的に早いということです。今号表紙のアジサイは我が家の庭のアジサイです。集中的な雨と高温続きのせいか、今年はやたらと花を付けています。花の重みで垂れ下がり、そばを歩くと邪魔になるほどです。

春先から気温の高い日が続き、今年は多くの花が例年より開花が早いそうです。暑い夏になりそうです。皆さん、体調管理にお気を付けください。

（高橋）